

教育目標	学び合い はげまし合い やりぬく子の育成 ～共生・共学・共創～					
めざす子ども像	〇よく見、よく聴き、最後まで学び合う子 〇お互いを認め笑顔忘れず助け合い励まし合う子 〇たくましく心をつくる子				総合評価	
めざす学校像	〇子どもたちが個人として尊敬され、わかる、できる、楽しい、やってみようと思える学校 〇保護者が子どもを通わせたい学校 〇地域の方が地域の拠点として誇りに思える学校					
めざす教職員像	〇子どもの成長を確かめ喜び合える教職員 〇互いを尊重し、相互にコミュニケーションを深め、課題解決に向けて協働する教職員 〇使命感と責任感を持ち、学び続ける教職員					
前年度の成果と課題				本年度の重点目標		
研修部・指導部から提案された取組に対しても教職員が丁寧に丁寧に対応することで、「めざす子ども像」に近づくことができた。また、地域と連携することで、教育活動を充実につなげた。 一方、個に応じた指導を行っているが、まだ、さまざまな課題が個々に見られる。「自己有用感」「自己肯定感」といった自尊感情を育むとともに、家庭との連絡も密にし、友だちとの確かな繋がりを育む取組の充実を図りたい。				〇基礎学力の向上と3つの資質・能力を育む授業改善をすすめる 〇安心・安全な学校づくりをすすめる 〇規範意識と子どもたちの確かなつながりを育成する 〇体力・運動能力の向上をすすめる 〇地域と共に歩む学校づくりをすすめる		
活動分掌	評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標等	評価	成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等
研究部	学習環境の充実	ICT機器を活用した授業の充実	本校の研究「ICT機器を活用した授業づくり」において、各学年が研究授業を行う。また、児童に学習アンケートを行い、項目6「ICT機器を使うと勉強がわかりやすい。」の肯定率を75%以上にする。	A	ICT機器を使って資料を示したり、友達の考えを共有したりすることで、多くの学年でICT機器を使うと勉強がわかりやすい。」と答えた児童が93%を超え、目標を達成することができた。	ICTを使うことにより、学習理解も進み、自分の考えを表現できる児童が増えてきているが、ICTを多用するのではなく、ツールの一つとしてとらえていく。今年度は、研究授業・研究協議が少なかつたので回数を増やしていく。
		学習規律の徹底	7つの約束を教室に掲示し、指導を学校全体で繰り返し行う。特に「話はだまって最後まで聞いている」を徹底させ、児童アンケート11の肯定率を85%以上にする。	B	7つの約束のすべてではないが、「話はだまって最後まで聞く。」という点を年間通して指導しているため、だまって最後まで話を聞ける児童が増えている。肯定率は86%と目標値を上回ったが、昨年度より1%減ってしまった。	7つの約束を学年はじめの教室掲示だけでなく、年間通して児童に伝えていくような手段を考える。
		家庭学習の充実	家庭学習の手引きを年間2回以上配布し、保護者に家庭学習の重要性を伝えるとともに、児童に家庭学習指導を行う。保護者アンケート13の肯定率を90%以上にする。	B	今年度も、11月初旬に家庭学習の手引きを配布することができ、昨年度より肯定率は上昇している。中高学年では、自主学習を行ったレライブラリーを活用したりして学習の充実を図ることができた。	家庭では、決められたことでの学習をしているので、自ら興味のあることやさらに深く学習したいことなど、自主的に学習しているように学習内容やテーマを提示する。
特別支援教育部	特別支援教育	ニーズに応じた支援の充実	保護者との連携のもと、特別支援学級在籍児童の実態を把握し、全員の個別支援計画を作成する。この支援計画に基づいて個々のニーズに応じた支援を充実させる。	A	「子どもの育ちアンケート」や懇談を行うことで、保護者の子どもへの願いを知り、どのように支援を行っていくかを確認しあうことができた。また毎日、連絡帳で学校と家庭での日常の様子を共有し、随時、適切な支援を行えるよう努めた。	支援計画の作成や評価の際に、交流学級担任と個々のためあてや課題を共有する。また、時間を見つけて、指導計画のもとに子どもをどう支援していくかを担任同士で共有する。
		みどりタイムの充実	みどりタイムでの活動内容や進め方、めあてなどについて協議する。また、活動を通して参加児童に達成感を持たせる。	B	活動は、昨年度と変わらず制限され、途中、数回中断されたこともあったが、かねてより計画していた活動を行うことができた。子ども達は落ち着いて、意欲的に参加していた。活動を時間内に切り上げて、次の授業へ移動することがスムーズになってきた。	活動内容をできる限り、交流学級担任に知ってもらい、活動の目的を理解してもらうことで、みどりタイムの活動時間を確保する。
		支援体制の充実	特別支援教育にかかわる職員研修を実施し、教職員の資質向上を図るとともに、特別支援担任・支援員を効果的に配置し連携を取ることで支援体制を充実させる。	B	コロナ禍で、出席停止になる子が増えるのと同様に、支援側も人手が足りなくなった。時間割や人数を随時確認し合い、情報を確認、共有してスムーズな支援ができるように努めた。	支援員・みどり担任・交流学級担任間で、子どもの実態や状況を確認し、各々適切な支援ができるように努める。
人権教育部	つながりのある集団づくり	自尊感情の育成	「ありがとうの木」を用いることで、同学年のみならず、学年を超えて感謝の気持ちを伝え合い自己有用感を高める。	C	「ありがとうの木」は、学年・学級内でもよいとしたが、あまり活用できなかった。	生徒指導部と相談し、「ありがとうの木」と「あいさつの花」の取組をどちらか重点的に行う時期を決める。
		日本語指導の充実	外国にルーツを持つ子どもたちの課題を把握し、克服に向けて入り込み支援や放課後学習を充実させる。	A	外国ルーツを持つ子どもたちの放課後学習は、学力向上につながってきた。互いのことを理解し合い、自分たちで計画・実行するお楽しみ会でのトラブルが減って楽しめるようになってきた。子どもたちの居場所として、大切な場になっている。	放課後学習を担当者以外の先生方にも見に来ていただき、子どもの様子を把握していただく。
		温かい人間関係づくり	児童が互いの違いを認め合える掲示を工夫すると共に、個別の人権課題についての学習を充実させる。各学年の学びを、校内掲示を通して学校全体に広める。児童アンケート7・8の肯定率90%以上、保護者アンケート6の肯定率85%を目指す。	B	2学期の学校行事日程の変更が多くあり、学年の取組を掲示することがあまりできていなかった。児童アンケート7(96.7%)・8(93.4%)の肯定率、保護者アンケート6(91.7%)の肯定率で、3年連続上昇している。	子どもの話を否定せずにしっかり最後まで聴き、感情を言語化することで、自己理解を深められるようにする。安心できる集団づくりをしていく。職員間で情報共有し、支援の仕方について検討しながら対応する。
		相談対応の充実	保護者と子育ての理念を共有し、関係機関との連携を含めて教育相談活動の充実を図る。また、そのための校内体制を改善・整備し、保護者への周知を図る。	A	不登校傾向の児童へ関わりでは、母親だけでなく父親とも懇談を行った。保護者の思いを聞き、学校での様子や我々の接し方を知らせ、共に考え合せて、少しでも焦った気持ちを安心できるように努めた。教育支援課、教育研究所、幼稚園と連携して支援を検討した。経過について、職員の情報共有を図った。	不登校傾向児童の保護者との連絡を密に取り、関係機関と連携しながら、保護者に寄り添い、子どもの支援に当たる。職員間で子どもの話をする機会を増やし、状況をつかむ。必要に応じてケース会議を開き、支援方法を検討する。
特別活動部	主体性の育成	一人一人のキャリア形成と自己実現	児童一人一人が自らの生活や学習の目標を決め、実現に向けて実践する。自らの成長や姿容を受け止め、次の目標に向けて努力しようとする意欲を高める。(キャリアパスポート)	B	キャリアパスポートを中心に1年間の目標や振り返りを行った。それぞれの学年が学期ごとのめあてを考えた掲示できた。めあてが達成されているか振り返る時間もとれるように取り組んだ。	今後もキャリアパスポートを活用し、自分の成長を受け止められるようにする。自分の目標に向けて、一人一人が努力する方法を考え実践する支援をする。
		委員会活動の充実	常時活動を通して、集団の一員として過ごしやすい学校づくりをめざす。また、常時活動以外に児童の願いや発想を生かした活動を取り入れる。(委員会活動振り返りカード)	A	「協力して最後まで活動する」項目は肯定率が高かったが、「自分の意見を進んで言う」項目は肯定率が低かった。児童アンケート7項目は肯定率が高かったと感じている児童もいる。各委員会オリジナルの活動を取り入れることができた。	常時活動や児童の発想を生かした活動は意欲的に取り組んでいる。今後も今年の活動やほかの学校での活動などを参考に、工夫をこらした活動を取り入れられるようにする。
文化部	読書活動の充実	読書意欲の向上	読書マラソンや読書通帳を活用して、児童の読書意欲を高める。また、図書委員会の活動などで様々な本に親しむ機会をもつ。児童アンケート4、5の肯定率を80%以上にする。	B	児童アンケートの結果は目標の80%にほぼ到達できた。図書委員会の活動の読み聞かせやレジャーハウスの企画、教師の読み聞かせ、クラスでの図書室利用などができた成果ではないかと思う。引き続き子どもたちの読書意欲が増すような取り組みを考え、実行していきたい。保護者アンケートの結果は、ふれあい読書が好評である。読書週間だけでなく家庭で子どもと一緒に読書に取り組みるように引き続き、図書館だより等で発信していきたい。	引き続きコロナ対策をしながら使いやすい図書室を目指し、環境作りを努めていく。読書が苦手な児童も本手に取る機会が増えるように教師も一緒に読書をする。開かれた図書室を目指し、可能な限り地域の方や市立図書館などに協力をお願いする。図書館だよりで学校の様子を知らせる。市立図書館の電子図書導入に向けてまずは、教師が電子図書を利用する。
		読書活動の啓発	週2日の読書タイムを全校で実施し、児童の読書習慣を養うと共に、図書館だよりを通して保護者へ活動の様子を伝える。ふれあい読書の取組をすすめ、家庭での読書の機会を広げる。保護者アンケート4の肯定率を90%以上にする。	B		
保健体育部	体力の向上	体育の授業の充実	毎学期、体育館の1単元と運動場の1単元でワークシートの作成をし、児童に授業評価を行わせることで授業改善を図る。	B	各学年で年間指導計画をもとに工夫して学習を進めることができた。ワークシートは、学期に2単元までは行っていないが、中高学年では今までのものを活用しながら作り替えなどを行いながら取り組めた。	体育部会内で学期初めに体育学習の計画について意見を出し合ったり、授業検討の時間を設ける。
		体力テストの数値の向上	体力テストの計測数のうち、県平均を超える種目が50%以上にする。	A	県平均を超えた種目の割合が51%であった。各学年で年間指導計画に基づき、児童の実態に合わせて学習計画を立てて学習を行ってもらえたことが大きな要因である。	50m走と立ち幅跳びの数値が著しく悪かったため、来年度は走・跳の運動に力を入れて学習計画を組んでいく。
生徒指導部	生徒指導の充実	いじめを許さない学校づくり	いじめに関するアンケートを年間2回実施し、いじめの早期発見といじめ解消率100%をめざす。	A		来年度も同様に年2回のアンケートを実施していく。また、いじめアンケートを効果的に活用していくために、聞き取りと共通理解を迅速に行っていく。
		豊かな人間関係づくり	全校によるあいさつ運動を始め、児童アンケートでの肯定率85%をめざす。	B	児童アンケートでは90%の肯定率であったが、教職員アンケートでは56%で保護者アンケートでは76%であった。この結果から児童としてはあいさつをしているが相手には届いていないという課題が見られる。	来年度も引き続きあいさつに関係する取り組みや活動を継続していく。さらに、今年度のようにあいさつめあてを明確にし、定期的に全校に呼びかける機会をとる。
		きまりを守り安心・安全な学校づくり	廊下歩行・チャイム着席を中心に学校の決まりを自発的に守ろうとする意識と、自分たちはしっかりと守れているという自己肯定感の向上を図る。児童アンケートでの肯定率90%をめざす。	B	児童アンケートでは89.4%の肯定率であった。しかし、実際に教職員の感じているところは相違がある。特に廊下歩行には、児童アンケートの結果以上に課題を感じる。	引き続き廊下歩行については声かけが必要である。また、教師だけでなく委員会活動なども含めて呼びかけを行っていく。また、チャイム着席については学級での呼びかけや指導を徹底していく。さらに、教職員アンケートの項目にも子どもたちのルールについての項目を追加していきたい。
		年間3回(地震・火災・不審者)の避難訓練を行い、児童の安全に対する意識を高める。また、全学年での交通安全や安全教育に関する学習に取り組む。さらに、毎月1回、全職員で校内の安全点検を実施する。	A	年3回の避難訓練を実施し、児童や教職員の安全意識の向上につながることができた。また、今年度は各学年で交通安全の学習を丁寧に取り組むことができた。しかし、避難訓練の際の緊張感が足りない実態が見られる。	一過性の取組になることなく、継続して取組を進めていく。児童の安全意識をさらに向上させるために災害や交通事故の危険性について理解を深め、緊張感をもった避難訓練を実施できるようにしたい。	
学校運営	保護者・地域との連携の充実	情報発信の充実	教育活動を保護者や地域の方々に理解を得られるよう、学校だより、ホームページ、学年だより等を通して情報発信を行う。(保ア⑭)	A	保護者アンケートで89%と昨年度より若干向上している。ただ、新型コロナウイルスにおいて、感染予防対策や活動方針がしっかりと示せたかどうかは今後も検証が必要である。	今後も学校の様子が分かる情報発信に努める。特に新型コロナ関連の情報は速やかにかつ正確な発信を目指す。
		パートナーシップ事業の充実	コーディネーターを中心に、保護者・地域との連携を図り、特に地域人材活用を推進する。(見ア⑯、保ア⑮)、(教ア⑰)	B	アンケート肯定率はいずれも85%を超えるが、昨年と比較するとゲストティチャーを招聘する回数はかなり少ない。	新型コロナ感染防止対策をしっかりと行った上で、学習効果を再度見直しながら、地域人材の活用を行っていく。
	教職員の資質向上	児童理解と人権感覚の高揚	教職員の人権感覚を高める研修活動を充実させる。(見ア③、保ア③⑥:90%以上)	A	児童肯定率は97%超で、A評価(そう思う)も85%超と好評であった。また、保護者のA評価も昨年度より約9%向上している。	児童に安心を与えられる教師集団になり得ていると考えられる。今後も児童のしんどさに寄り添える教師集団を目指して研修を重ねていく。
		指導力の向上	教材研究に励み、わかる授業、学ぶことが楽しいと思える授業づくりに努める。(見ア②、保ア②:90%以上) (教ア⑱)	B	保護者肯定率は向上しているが、児童肯定率が3.5%低下している。今年度は限られた時数で学習を進めたこともあり、学力の定着が不十分であったと考えるべきである。	「分かった！」や「できた！」という実感が勉強の楽しさであるということを再確認した上で、教員相互の協働のもと、「あっという間」とか「気が付きを多く与えられる授業展開を研究していく。
組織力の強化	チーム力を生かした学校経営	各主任への連絡及び校務分掌間の連絡において迅速な情報共有に努める。(教ア⑲)	A	教職員肯定率は95%と高い。また、同学年間での連携に基づく教育活動の展開は多く見られる。		
				B	主任を中心に各部の取組は計画から実施まで問題なく進行できるが、各主任が情報共有できていない事例が見られた。	学年主任や校務分掌主任への連絡を優先して行い、組織的対応がスムーズに進むように見直ししていく。
学校関係者評価 ・地震等の災害はいつ起きるか分からないので、休み時間や清掃時間を想定して避難訓練を行うことはよいことである。時間帯が変われば、先生の動きも変わるので訓練は大切にしてほしい。 ・PTAの通学路チェック以外にも、子どもと一緒に防災マップを作成する活動を取り入れ、防災意識の向上を目指してほしい。また、防犯についても考えさせてほしい。 ・外国にルーツのある児童や低学力傾向の児童に対して、昼休みの算数教室や放課後学習を積極的に行ってほしい。 ・リモート学習を含め児童が楽しく学べる環境を整え、また、保護者との連絡を密にするなど、児童が登校しやすい学校を作っていくべきである。 ・近くの公園でいろいろな年齢の子どもが遊んでいる。楽しく学校生活が送れているから、家でも誘い合って上の子下の子かまわず遊べるのだから。 ・先生は子どもの見本となるようにしっかり挨拶してほしい。心に届く挨拶ができるようにお願いしたい。安全のためにも挨拶は大事である。						

B